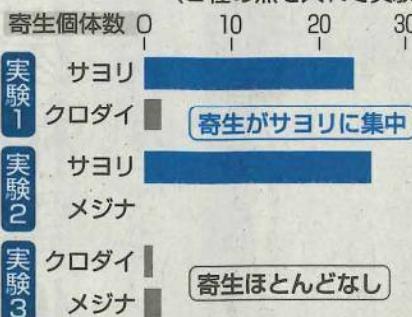


好みの魚選んで寄生

サヨリヤドリムシの幼生

サヨリヤドリムシ幼生の寄生状況
(2種の魚を入れて実験)

サヨリヤドリムシの幼生(マンカ)に、2種の魚を同時に与えた実験の結果。サヨリとクロダイ、またはサヨリとメジナと一緒に入れた実験1、2では、幼生のほとんどがサヨリに寄生。クロダイとメジナだけを入れた実験3では寄生はほとんど起らなかった。

※研究グループの資料を基に作成

魚に寄生して生きるサヨリヤドリムシが、成長の初期段階で好みの魚を選んで寄生していることが、弘前大学と北海道教育大学の研究で分かった。水槽実験で幼生の動きを詳しく調べ、寄生虫が宿主を能動的に選択していることを明らかにした。研究グループは「寄生虫と宿主が進化の過程でどのような関係を形づくってきたのかを理解する上で重要な知見となる」と話している。

サヨリヤドリムシは魚の体表や口の中、えらなどに寄生して生活するウオノエ科の甲殻類。メスは最大約

(菊谷賢)

2センチの大きさになる。主な宿主はサヨリだが、自然界ではクロダイやメジナなど、幼生期に別の魚へ寄生

する」と述べている。このため、本当にサヨリを選んで寄生していることが、弘前大学と北海道教育大学の研究で分かった。水槽実験で幼生の動きを詳しく調べ、寄生虫が宿主を能動的に選択していることを明らかにした。研究グループは「寄生虫と宿主が進化の過程でどのような関係を形づくってきたのかを理解する上で重要な知見となる」と話している。

(菊谷賢)

2センチの大きさになる。主な宿主はサヨリだが、自然界ではクロダイやメジナなど、幼生期に別の魚へ寄生

弘大・北教大 水槽実験で確認



サヨリのえらの部分に寄生するサヨリヤドリムシ(川西亮太・北海道教育大准教授提供)



曾我部篤准教授

弘前大農学生命科学部の曾我部篤准教授は「ウオノエ科の寄生虫は、行き当たりばつたりではなく、選択的に宿主へ寄生していることが示された。寄生の成功率を高めるために、宿主を識別する能力が進化してきたのだろう」と語った。研究成果は11日、国際学術誌「パラシトロジー・インターナショナル」のオンライン版に掲載された。

している例も確認されてきた。このため、本当にサヨリを選んで寄生しているのかは分かり難いなか、それとも無差別に魚に付いた結果、たまたまサヨリに寄生できた個体だけが生き残っているのかは分かっていないかった。

研究グループは寄生前の幼生(マンカ)に注目し、水槽内に魚を入れて、どの魚

だけを入れた水槽では、寄生はほとんど起らなかつた。観察の結果、クロダイやメジナはマンカを頻繁に捕食していたのに對し、サヨリがマンカを食べる様子は一度も確認されなかつた。

一方、クロダイとメジナだけを入れた水槽では、寄生はほとんど起らなかつた。観察の結果、クロダイやメジナはマンカを頻繁に捕食していたのに對し、サヨリがマンカを食べる様子は一度も確認されなかつた。